

農産FAX情報 第6号

令和4年8月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 ばれいしょ

(1) 疫病防除

○疫病菌による塊茎腐敗は、茎葉の疫病菌が土壌中に侵入し、塊茎に感染して発病します。茎葉に効果があっても、塊茎腐敗には効果がない薬剤があるため、塊茎腐敗防止を目的とした防除を行う際には薬剤の選択に注意しましょう。

(2) 軟腐病防除

○倒伏しているほ場が散見されます。倒伏にともなう折損により、軟腐病の発生が助長されることがあります。高温多湿な条件下で発生が増えるため、予防的防除を実施しましょう。

2 てんさい

(1) ヨトウガ防除

○8月上旬からは第2世代の幼虫発生に注意が必要です。第2世代の幼虫は、8月上旬から10月下旬まで加害するため、複数回防除を行う場合は同一系統の薬剤の使用は避けましょう。○薬剤の効果は、幼虫の齢が進むにつれて低下するため、若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。

(2) 褐斑病防除

○病害虫発生予察情報より、今年は初発が早く高温予報による多発が警戒されています。また、十勝南部地区で褐斑病の発生が確認されていますので、引き続き、予防的防除を徹底しましょう。

(3) 葉腐病防除

○本病は気温 20℃、湿度 95%程度の高湿多湿条件が2～3日続くと発生しやすいです。褐斑病とあわせて防除を行いましょう。

表1 葉腐病・褐斑病の防除薬剤例

薬剤名	病害	成分名	使用倍率	使用時期	使用回数
グットクル水和剤	褐斑病・葉腐病	テブコザール・マンゼブ	500倍	収穫21日前	2回
どさんこスター水和剤	褐斑病・葉腐病	フェンブコザール・マンゼブ	500倍	収穫21日前	4回

3 豆類

(1) 菌核病・灰色かび病防除

- 多くのほ場で開花期を迎えています。菌核病は開花期以降の多湿、灰色かび病は、低温多湿で発生が多くなるため、気象状況や生育ステージに注意しましょう。
- 小豆の1回目の防除開始目安は開花1週間後、大豆は10～15日後です。その後、10日毎に2～3回防除を行いましょう。
- 灰色かび病では、チオファネートメチル剤、フルアジナム剤及びジカルボキシイミド系剤に対する耐性菌が認められているため、薬剤の選定に注意しましょう。

表 菌核病・灰色かび病の防除薬剤例

薬剤名（登録作物）	成分名	使用倍率	使用時期	使用回数
プライア水和剤 （小豆、大豆、菜豆）	N-フェニルカーバメート・MBC （ジエトフェンカルブ・ベノミル）	1,000倍	収穫14日前	4回
ファンタジスタ顆粒水和剤 （小豆、大豆、菜豆）	QoI（ピリベンカルブ）	2,000倍	収穫7日前	3回
カンタスドライフロアブル （小豆、菜豆）	SDHI（ボスカリド）	1,000～ 1,500倍	小豆：7日前 菜豆：21日前	小豆：3回 菜豆：2回

秋まき小麦収穫後の除草剤散布など、ドリフトに注意！

機械の点検や調整は、必ずエンジンを停止！